



爆チュー問題号

第202号

発行日：令和2年11月1日

発行者：医療法人 博愛会

福田脳神経外科病院 院内情報委員会

診察室から 物忘れ、認知症

院長 福田 雄高

脳卒中、頭部外傷、てんかん、手足のしびれ（脊椎疾患）などと並んで、脳神経外科を受診される機会が多いものに、物忘れ、認知症があります。物忘れ、認知症というと、最も専門となる診療科は、精神科や神経内科と考えますが、脳神経外科も診断、治療の重要な役割を担っているものと考えます。

認知症とは、なんらかの理由によって、脳の細胞が壊れてしまい、理解したり、判断したり、記憶したりする能力が障害され、日常生活に支障ができてくる状態をいいます。

厚生労働省は 65 歳以上の認知症有病率を約 15%としています。概算すると全国で約 530 万人、認知症予備軍といえる軽度認知障害（MCI）まで含めると、日本で認知機能低下に悩む方は実に推定約 1000 万人にのぼるともされています。佐賀市人口約 23 万人、65 歳以上約 6 万人程度から概算すると、佐賀市にも、おおよそ 1 万人近い認知症の方がいるとも推測されます。

認知症で最も多いのは、アルツハイマー型認知症ですが、それにレビー小体型、前頭側頭型、脳血管性とあわせた 4 つの型が代表的です。しかし、その他に水頭症、慢性硬膜下血腫、甲状腺機能低下、ビタミン B12 欠乏、アルコール、免疫疾患をはじめとした内科的疾患など、様々な原因があります。

脳神経外科の役割として、水頭症や慢性硬膜下血腫など、治療して改善し得る疾患がないか検査を行うことは重要です。また、そういう疾患がなかった際にも、認知機能低下の原因として、脳梗塞や脳出血の後遺症によるものではないか、あるいはアルツハイマー型認知症なのか、前頭側頭型なのかなど精査することになります。まずは頭部 MRI による評価が重要なものになると考えます。記憶にかかわる海馬の萎縮を示す MRI の条件として、VS-RAD という撮影の条件もあります。

久しぶりに帰省したら、なんとなく親の挙動がおかしい、免許更新のテストの点数が足りなかった、最近性格が怒りっぽくなった、前はできていたことなどが、なんとなくできなくなったなど、気になる症状を認めた場合は脳神経外科にも遠慮なく受診、相談頂ければと考えます。



穏やかな風景をのんびりと眺めていたいものです。